



今月の話題

- 政策研究大学院大学での防災政策に関する講義
- 火山災害への備え～トンガにおける2022年の火山噴火の被害実態、富士山噴火の被害想定等から考える～政策研究大学院大学・建築研究所共催シンポジウム(2023年1月16日)
- 遠隔 IISEE セミナー開催のご案内(1月20日、2月6日)
- 東大地震研古村教授最終講義について
- アルジェリア国立工科大学教授 Abdelkrim Bourzam 博士が IISEE を訪問
- 建築・住宅地震防災国際ネットワークプロジェクト (IPRED) 2022 年度出席
- カンボジア王国視察団訪問と意見交換

政策研究大学院大学での防災政策に関する講義

国際地震工学センター 管理室長 山田高広

国際地震工学センターで実施している地震工学通年研修は、政策研究大学院大学(GRIPS)と連携していることから、修士号を取得することも可能です。

GRIPSの修士号(Master of Disaster Management)取得を目指している研修生は、11月8日(火)から11月21日(月)まで、政策研究大学院大学が実施する防災政策に関する集中講義を受講しました。



GRIPSでの講義の様子①



GRIPSでの講義の様子②

この集中講義では、GRIPSの教授等から、建築、都市、インフラ等に関する防災政策、これまでの災害による被害や復旧・復興等に関する講義が行われました。また、コロナ禍により実施されていなかった現地視察が2019年以来行われ、六本木ヒルズにおいて、市街地再開発プロジェクトや防災対策の取り組みを視察しました。さらに、研修生により、自国の災害、防災政策、自らの防災との関わりについて、プレゼンテーシ

ョンとディスカッションが行われ、IISEE、ICHARM、日本人学生が、各国の防災に関する知見を深め合う機会となりました。

日本では、しばらくの間、寒い日が続くと思いますが、少しずつ昼(日の出から日没まで)の時間が長くなってきます。研修生のみなさんには、正月の日本文化にふれてみるなど、気分転換しながら寒い冬を乗り越えてもらいたと思います。

研修データベース

IISENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

E ラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

火山災害への備え～トンガにおける 2022 年の火山噴火の被害実態、富士山噴火の被害想定等から考える～政策研究大学院大学・建築研究所共催シンポジウム(2023 年 1 月 16 日)

2023 年 1 月 16 日(月)に政策研究大学院大学・建築研究所共催シンポジウムを開催します。

シンポジウムは次の内容を予定しております。

趣旨:2022 年 1 月のフンガ・トンガ・フンガ・ハアパイ(HT-HH)火山の大規模噴火をはじめ、世界において、火山の噴火に伴う被害が発生しています。日本は、世界有数の火山国であり、たびたび火山が噴火しており、富士山の噴火による首都圏への影響が懸念されていることなどから、火山災害への備えが重要になっています。本シンポジウムでは、関連する取り組みや技術の動向等について情報交換し、今後取り組むべき課題について考えます。

日時:2023 年 1 月 16 日(月)13:30～17:00

会場:オンライン(ZOOM ウェビナー:事前登録制)参加費無料

主催:国立大学法人政策研究大学院大学、国立研究開発法人建築研究所

URL:

<https://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/press/2022/557.pdf>

プログラム

13:30-13:40 主旨説明:小豆畑 達哉(建築研究所構造研究グループ長)

13:40-15:20 第1部 トンガ HT-HH 火山噴火による災害と備え

15:20-15:30 休憩

15:30-17:00 第2部 富士山の噴火により予想される災害と備え

17:00 閉会



お申込URL:https://grips-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_YmD1A2FiTYyd_cv2H-_n5Q

お問合せ:政策研究大学院大学火山災害シンポジウム事務局(E-mail: grips.dms@gmail.com)



地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

遠隔 ISEE セミナー開催のご案内(1月20日、2月6日)

東北大学の今村教授、気象研究所の干場研究総務官による遠隔での ISEE セミナーをそれぞれ以下のとおり開催いたします。ぜひご参加ください。

<日時>1月20日(金) 8:50-10:00 (日本時間)

<内容> 8:50-9:00 最近の ISEE の活動紹介 (Zoom)

9:00-10:00 Lessons learnt from the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami for Resilient society

-Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030 (今村教授) (Zoom)

<講師> 今村文彦 教授(東北大学災害科学国際研究所 所長)

<参加登録> 以下の応募フォームからご登録ください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSch1PGKQPwg-tK7IDk1PsH1W3s-GeYzWkRvAMrU3iAthKpEZA/viewform>

<日時>2月6日(月) 15:30-16:45 (日本時間)

<内容> 15:30-15:40 最近の ISEE の活動紹介 (Zoom)

15:45-16:45 Fifteen years' experience of nationwide earthquake early warning in Japan (干場研究総務官) (Zoom)

<講師> 干場充之 研究総務官(気象庁気象研究所)

<参加登録> 以下の応募フォームからご登録ください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfqBr_VTm32oJ1eNy3soKmH3HAjKIFndkHkdyNMjlsWYs3pGg/viewform

<開催者> 建築研究所 国際地震工学センター

各セミナーの録画をご覧になりたい方は、応募フォーム上に記載ください。後日、リンクとパスワードをお送りします。

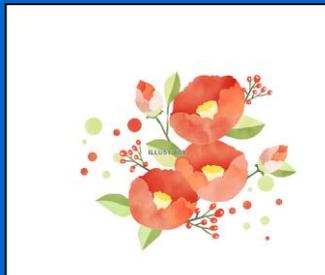
このセミナー情報を帰国研修員皆様の職場の同僚や、後輩の方にお伝えください。

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



東大地震研古村教授最終講義について

国際地震工学センター 管理室長 山田 高広

国際地震工学研修における東京大学地震研究所古村教授の最終講義が12月15日(木)に行われました。古村教授には2001-2002年研修コースから地震波動理論の講義の一部をご担当いただきました(2001年当時は助教授)。以降20年以上にわたり、開発途上国の技術者や研究者に対する講義により、地震波動理論に関する理解の促進、知識の普及等にご尽力されました。誠にありがとうございました。



集合写真

アルジェリア国立工科大学教授 Abdelkrim Bourzam 博士が IISEE を訪問

国際地震工学センター 研究員 鹿嶋 俊英

2022年12月、アルジェリア国立工科大学教授 Abdelkrim Bourzam 博士が IISEE を訪問されました。Bourzam 博士は2001年から2002年の IISEE コースの参加者でした。今回の訪問で Bourzam 博士は、組積造構造に関する特別講義を行い、IISEE と建築研究所の研究者と意見交換を行いました。



Abdelkrim Bourzam 博士

建築・住宅地震防災国際ネットワークプロジェクト (IPRED) 2022 年度出席

国際地震工学センター 研究員 大塚悠里

建築・住宅地震防災国際ネットワークプロジェクト(IPRED)2022年度会合を、日本標準時で11月8日と10日に、オンラインで開催しました。IPREDとは、UNESCOのプロジェクトで、JICAによるODA事業と国際地震工学研修を通じて

IISEE と密接な関係にある 10 カ国の指導的な研究機関と IISEE により実施されています。

8 日の会合では、エルサルバドル、エジプト、チリ、メキシコ、ペルーの代表が、10 日の会合では、アルジェリア、インドネシア、日本、カザフスタン、ルーマニア、トルコの代表が、IPRED 活動の現況報告を行いました。

日本の代表者は、10 日の会合で、日本の活動報告と組積造構造実験データベースと本データベースを用いた研究成果を報告しました。本データベースはレンガやコンクリートブロックを積み上げて構築される組積造壁の実験結果(543 体分)を Excel 形式でまとめたものです。実験結果には本会合参加国を含めた世界中のデータが収集されています。図 1 に収集した実験データ数を国別で示します。

これらのデータを用いた分析より、組積造壁の構造特性ごとの差異や、鉄筋コンクリート造壁との構造性能の違いを明らかにしました。図 2 に 4 種類に分類した組積造壁の構造形式を示します。

なお、本データベースを用いた分析や研究成果については、建築研究所より建築研究資料として公開されています。また、本資料の英語版が建築研究所より出版される予定です。

* 日本の代表

小豆畑達哉

建築研究所 構造研究グループ グループ長

大塚悠里

建築研究所 国際地震工学センター 研究員



楽しむのは今です

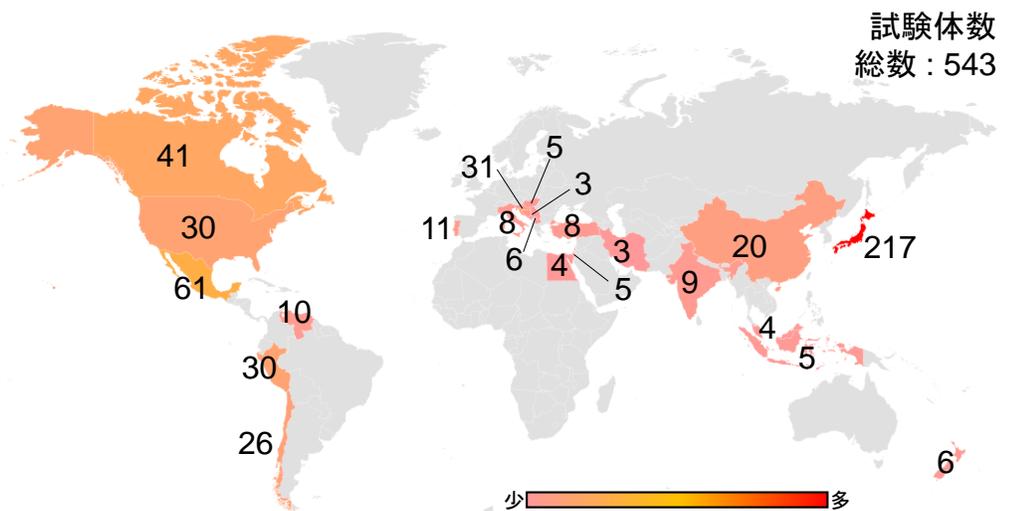


図 1 国別の実験データ数

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<https://iisee.kenken.go.jp/jp/>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<https://iisee.kenken.go.jp/jp/newsletter/>

組積造壁

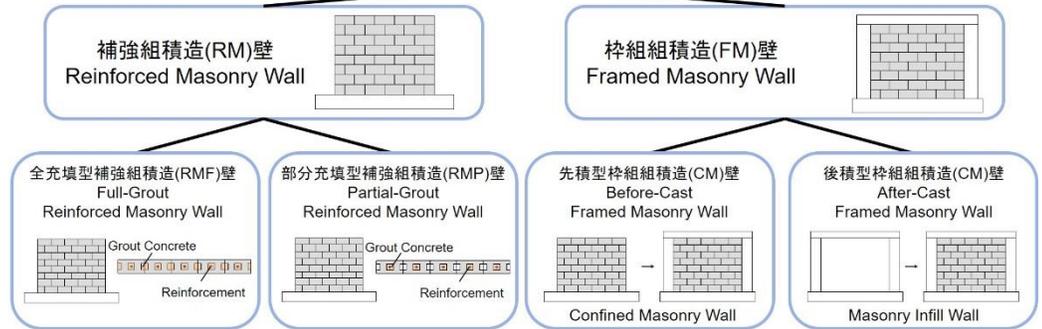


図 2 組積造壁の分類(4 種類)

国際地震工学センター web: <https://iisee.kenken.go.jp/jp/>

カンボジア王国視察団訪問と意見交換

国際地震工学センター 管理室長 山田 高広

建築研究所企画部国際担当を窓口として11月24日(木)に、カンボジア王国国土省19名の訪問を受けました。

訪問は、建築研究所の研究概要説明、実大構造物実験棟及び実大火災実験棟の施設視察、研修案内と意見交換が行われました。

実大構造物実験棟説明は小豆畑構造研究グループ長が、実大火災実験棟説明は防火研究グループの野秋主任研究員が、研修案内は芝崎国際地震工学センター長、諏訪田主任研究員が対応しました。



建築研究所の施設視察



記念撮影